

令和 2年 4月 16日

公益財団法人佐賀未来創造基金
理事長 山田 健一郎 様

住 所 佐賀県佐賀市本庄町 1 佐賀大学農学部
団体名 浅海干潟環境学 lab (印)
役職/代表者名 ユニットリーダー/ 大塚諄史

第2回 “荏原環境プラント 「e-さが基金」”助成事業 実績報告書

2019年7月16日付けで交付された、東よか干潟における塩生植物群落の根圏階層構造と底質環境のモニタリング 事業について、下記のとおり事業を実施したので、関係書類を添えて報告します。

記

1. 事業実績報告書 (別紙 1)
2. 事業収支決算書 (別紙 2)
3. 事業決算内訳書 (別紙 3)
4. その他必要な書類
 - ・ 決算内訳書の記載内容に該当する領収書の写し
 - ・ 事業実施の様子がわかる写真
 - ・ 事業実施に際して配布した資料 (開催チラシなど)

事業実績報告書

事業名	東よか干潟における塩生植物群落の根圏階層構造と底質環境のモニタリング
事業主体	浅海干潟環境学 lab
事業内容	<p>東よか干潟におけるシチメンソウヤード周辺を対象に複数の調査地点を設置し、1) シチメンソウ群落のハビタット環境及び生育調査、2) シチメンソウ以外の他の塩生植物の空間的な分布状況、3) 塩生植物群落の根圏と底質環境を調査した。ここで、1) のハビタット環境として底質（塩分、pH、含水率、有機物量、EC など）、シチメンソウ群落の生育環境としてシチメンソウの草丈及び色づきの経日変化をモニタリングした。次いで、2) の塩生植物群落の空間分布の調査には、ドローンを用いて対象エリア全域の空中写真撮影を行い、PhotoScan により空中写真をオルソ化した。また、3) の調査としてシチメンソウ以外の塩生植物の分布と根圏の踏査調査を行った。</p>
活動経過	<p>※事業全体の開始年月日および終了年月日を明記してください。</p> <p>本事業の活動は、2019.4/1～2020.3/31 の期間で行い、主な活動内容は以下の通りである。</p> <p>1). シチメンソウ群落のハビタット環境調査：2019.4/19、4/25、5/14、5/15、5/21、6/4、6/6、6/11、6/20、7/2、7/26、8/21、8/30、9/11、9/12、9/24、10/15、10/17、10/21、10/30、11/18、11/26、12/3、12/16、2020.1/8、1/20、2/3、2/21、3/2、3/10</p> <p>2). ドローンと踏査による塩生植物群落の分布調査とデータ整理：2019.10/28～2020.3/31</p> <p>3). 1). で採泥した底質サンプルの底質分析：2019.4/1～2020.3/31</p>
事業実施の成果・効果	<p>本事業の調査には延べ 107 名の一般市民と学生が参加し、本事業により東よか干潟保護ヤード周辺の塩生植物群落の分布性と根圏構造が把握された。また、底質環境の見地から 2018 年秋季に発生したシチメンソウの立ち枯れ被害に直結する要因は見出せなかった。本事業で得られた知見は、シギチフェス 2019in 東よか干潟（2019.5/18）、サガテレビ「海と日本プロジェクト」（2019.8/20 放送）、第 43 回全国高等学校総合文化祭（2019.7/30）、神崎市いきいき大学（2019.9/19）、サガテレビ「かちかち press」（2019.10/14 放送）、佐賀新聞の電話取材（2019.10/15）、農業農村工学会九州沖縄支部大会のポスター発表（2019.11/14）、東よか干潟環境保全及びワイズユース検討協議会（2019.11/22）サガテレビのメール取材（2019.12/2）、佐賀自然史研究への論文投稿（2020）などを通して佐賀市内外にシチメンソウ群落の生育環境に関する情報を広く発信し、地域（干潟）の環境保全に関する啓発活動に大きく寄与した。</p>
今後の事業展開（活動方針）	<p>引き続き東よか干潟におけるシチメンソウ群落の植生環境のモニタリングを行う。また、底質環境だけでなく潮位や干潟の微地形変化などの沿岸環境を同時にモニタリングし、シチメンソウ群落の中長期的な保全、再生を検討する。</p>
その他特記事項	

第2回“荏原環境プラント「e-さが基金」” 事業収支決算書（別紙2）
事業収支決算書

	区 分	予算額（円）	決算額（円）	増減額（円）
		第2回“荏原環境プラント 「e-さが基金」” 助成金	(ア) 350,000	① 350,000
収 入	自 己 資 金			
	事 業 収 益 金 そ の 他 の 収 入			
合 計	350,000	350,000		

	費 目 ※勘定科目を記載	予算額（円）	予算額の内、 本助成金に よる予算額(円)	本助成金による 決算額（円）	増減額（円）
		消耗品費	319,200	319,200	319,200
	謝金	30,800	30,800	30,800	
支 出					
	合 計	350,000	(イ) 350,000	② 350,000	

※（ア）＝（イ）となります。

※①＝②＝③となります。

第2回“荏原環境プラント「e-さが基金」” 事業決算内訳書（別紙3）
事業決算内訳書

（単位：円）

費目	金額	内訳（単位：円）
消耗品費	52,920	三菱 144L 冷凍庫
	11,340	サンプル容器
	69,660	DISMIC フィルターなど
	63,936	試薬一式（リン酸、アンモニア、硝酸）
	38,340	タイムラプスカメラ
	1,728	広口洗浄瓶など
	28,600	プリンター修理代
	34,650	ハンディ GPS
	9,528	バケツ、ケース、チューブなど
	4,258	ポリ袋、ラミネートフィルムなど
	3,957	ビニールテープ、塩ビパイプなど
	283	除菌アルコールタオル
	謝金	5,500
4,400		2019/10/30 ドローン調査（石橋氏） 4h（9:30-13:30）
4,400		2019/10/30 ドローン調査（大塚氏） 4h（9:30-13:30）
5,500		2019/10/28 ドローン調査（石橋氏） 5h（10:00-15:00）
4,400		2019/11/11 画像処理（石橋氏） 4h（13:00-17:00）
3,300		2019/11/11 画像処理（石橋氏） 3h（13:00-16:00）
3,300		2019/11/11 画像処理（石橋氏） 3h（13:00-16:00）
		* 謝金の時給は佐賀大学大学院 TA の時給に準拠し ¥1,100 とする。
合計	③ 350,000	

※① = ② = ③となります。